



カーネーションの種は、どこからとれるの

カーネーションの種類

母の日におくる花として有名なカーネーションは、品種改良が重ねられてきて、色もさまざまです。カーネーションは、花の仲間分けでは、ナデシコの仲間に入ります。

ナデシコの花は、真ん中にめしべがあり、まわりをとりまくように、おしべがあります。そして、必ず、おしべが、めしべより先に熟します。そうすることで、同じ花のおしべの花粉が、めしべにつかないようになっているのです。ほかのナデシコの花の花粉が、めしべにつくと、種ができます。

カーネーションの花は、改良を重ねられてきたため、退化して種ができにくくなっていますが、花びらの根もとを見ると、ナデシコと同じように、めしべやおしべがあります。ですから、うまく、ほかの花粉がめしべにつけば、種ができます。

ふやすのに、種はほとんど使われない

カーネーションなどナデシコの仲間は、今は、ほとんど、さし芽でふやします。そのほうが、確実に、親と同じ性質の花が咲くからです。種では、いろいろな花の雑種になるため、どんな花が咲くか、咲いてみないとわからないところがあるのです。

最近では、さし芽のかわりに、切り分けた細胞を試験管の中で育てて、ふやすことも、さかに行われています。（監修・矢野 亮）

